第６回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

議事要旨

日 時：平成 31 年 3 月 14 日（木曜日）15：30～17：30
場 所：名古屋ダイヤビルディング 1 号館　161 会議室

1.　開会

2.　開会あいさつ　（中部地方整備局　天竜川ダム統合管理事務所長）

3.　委員長挨拶

4.　議事

(1)　モニタリング委員会の概要及び平成 30 年度の土砂バイパストンネルの試験運用状況

事務局より、モニタリング委員会の概要及びこれまでの各部会の状況について説明した。

また、平成 30 年度の土砂バイパストンネルの運用状況と過去 3 年間の試験運用状況について報告した。

(2)　各部会の報告

事務局より各部会の報告について説明し、主に以下の意見を頂いた。

（土砂収支部会）

・桶谷地点からの流入土砂量の把握方法として、SS 観測の信頼性、LQ 式の妥当性を確認し、正確な流入土砂量が把握できるように検討する必要がある。

（構造部会）

・施設損傷に有意であれば、大きな粒径はバイパスしないという運用も考えられるため、土砂量だけでなく、粒径に対しても、摩耗との関係を把握する必要がある。

・局所的な損傷に対する補修基準と補修方法の確立が必要である。

（環境部会）

・環境評価の視点は、単純に「ダム無の状態に近い環境」という表現で断定するのではなく、モニタリング項目ごとに丁寧に評価する必要がある。

(3)　各部会及びモニタリング委員会のまとめと今後の方針

事務局より各部会及びモニタリング委員会のまとめと今後の方針について説明し、主に以下の意見を頂いた。

・バイパス土砂量の土砂濃度の把握は重要である。また、土砂を含んだ出水による変化、土砂を含まない出水での土砂移動による変化を把握する必要がある。

・バイパストンネルの効果として、ダム貯水池に土砂を入れないという効果があり、貯水池の水質改善効果の視点でも、貯水池の定期調査の結果を整理し、長期濁水化の低減効果の評価することが望ましい。

・局所的な補修基準は、構造的な性能を考えたときにどこまで許容できるのかといった面で考えていくと良い。

・環境評価は、バイパス運用後の平常時の環境の評価と、小渋川だけでなく天竜川を含めて評価することが望ましい。

5.　閉会